

4/29（祝） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 同大 vs 大教大

負傷者や出場停止で多くのレギュラー選手を欠く大教大の入口監督は、試合前、「今日は同志社がボールをキープする時間が長くなる。しかし、それは意図的にキープさせるという狙いでもある。」とゲームプランを明かしてくれた。実際、大教大は堅守をベースに、好調なFW⑨森原慎之佑にフィニッシュを託すサッカーで同大を苦しめた。

対する同大は、手堅く守られても技で崩すことを得意とする大教大の堅陣に、細かいパスとドリブルで仕掛け、手詰まりになるとMF⑩荒堀謙次が大きくサイドチェンジをする役割を担い、再度手薄なサイドから攻め入るパターンを執拗に繰り返した。しかし、今季の同大の抱えている課題、決定力不足が露呈。ゴールに近付きながらも、1点が遠いまま時間が過ぎていった。

前掛かりになる同大に対し、大教大のカウンターが脅威となり、まさに入口監督の描いた試合展開が90分以上続いた。しかし、4分のアディショナルタイムのラストプレーで、同大の絶对的な個、MF⑩楠神順平がその力を発揮。ドリブル突破からPKを獲得。自身で沈めて、貴重な勝ち点3を奪い取った。サッカーにおける個の力の恐ろしさを痛感する一戦だった。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

同大 1 { 0-0
1-0 } 0 大教大

得点(アシスト)者
89分 楠神

第2試合 大院大 vs 京産大

なかなか波に乗れない両校の対戦は、派手なゴールで幕を開けた。6分、大院大MF⑥馬場悠が25メートル以上の距離のあるFKをゴール隅に突き刺した。大院大は、気持ちが楽になったこともあり、リズムを掴み続ける。加えて、「馬場のポジションを少し後ろに下げて、プレッシャーの少ない状態でボールを持てるようにした。」という大院大・藤原義三監督の狙いも当たり、チームの中心である馬場が自由にチームを操る。流れに乗った大院大は、後半9分にFW 48 大槻周平のヘッド、15分にFW 60 小野真国のループシュートで追加点。試合を決めたかに思えた。

しかし、「集中力が切れて、セカンドボールに食らいつけなかった。」と大院大の藤原監督と馬場主将が口を揃えたように、京産大の猛追を許す。16分、MF⑧楠田一斗が混戦から押し込んで反撃の狼煙を上げた京産大は、22分にもMF⑩金本竜市が正確なコントロールのシュートを決めて、あっという間に1点差。

追う者の強みで、京産大が大院大ゴールに迫るが、縦に焦り過ぎて同点に持ち込めない。大院大を苦境から救ったのは、MF 53 四ヶ浦寛康。41分に、角度の無い位置からのシュートを強引に捻じ込み、チームに勝利を呼び込んだ。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

大院大 4 { 1-0
3-2 } 2 京産大

得点(アシスト)者
6分 馬場
54分 大槻(畑中)
59分 小野(四ヶ浦)
86分 四ヶ浦(佐藤)

得点(アシスト)者
61分 楠田(足立)
67分 金本(楠田)

4/29（祝） 鶴見緑地球技場

第1試合 近畿大 vs 阪南大

共に前節、初白星同士の対決は阪南大が白星を連ねた。中盤のしのぎあいに命運をかける両チームだが、先手を取ったのは阪南大。「こぼれ球を拾って」攻撃のリズムが出た阪南大は、23分、左サイドのFW⑪木原正和の突進からチャンスを作り、中央のMF⑩東浩史がきれいに叩き込んだ。

先制で阪南大ペースになるかと思えたゲームだが、そこから近畿大はボランチMF⑥島田諭、MF⑦枝本雄一郎ラインが活気を出し始めた。得点にこそならなかったが、逆に阪南大を押し込んだ。後半も近畿大は、前半終盤からの中盤の優位そのままに、チャンスをメイクし、同点に追いついた。

同点打は後半3分、中盤の底から左のFW⑪平石竜真とつなげ、最後は枝本が決めた。15分あたりまでは完全に近畿大のペース。阪南大は近畿大の攻撃に対応が遅れがち。しかし、阪南大DFもよく耐え、近畿大は勝ち越し点を許さなかった。結局近畿大はここでの逸機が、大きな悔いを残すことになる。

阪南大は後半26分のPKははずしたが、ロスタイムで、東が相手ボールを奪い、エースのFW⑬西田剛につなげて決勝点を奪った。

（文：関西学連）

近畿大 1 { 0-1
1-1 } 2 阪南大

得点(アシスト)者
48分 枝本(平石)

得点(アシスト)者
23分 東
89分 西田(東)

桃山大 0 { 0-1
0-0 } 1 立命大

得点(アシスト)者
33分 宮尾(前野)

第2試合 桃山大 vs 立命大

桃山大が苦しんでいる。決して内容で、立命大に劣っているとは思えない。むしろ中盤の支配力、展開、攻撃の幅、厚さは桃山大が上回っている感じで、シュートチャンスのきわどさからいえば、分があったといってもおかしくはなかった。しかし、バーに嫌われ、立命大のDF陣に阻まれ、どうしても1点が取れなかった。

対する立命大は、前半33分、唯一のチャンスを得点に結びつけた。左サイドからのスローインをタイミングよくFWの⑦宮尾勇輝が拾ってゴールに放り込んだ。桃山大は、それまで中盤でも、最終DFラインでも負けていなかった。この一瞬だけ気持ちが抜けた、としか言いようがない。桃山大DFが「一つ一つのプレーを大事にできなかった」(桃山大・松本監督)結果なんだろう。

その直後、DF④宮内豪が退場、立命大が後半27分に、同じDFの⑤畑尚行が退場するまで、一人少ない布陣で、磐石のDF網を展開できていたのだから、桃山大にとっては悔やみきれない一瞬だった。立命大は攻撃面で、中盤の組み立ては悪くないが決定力不足が気になるところ。

（文：関西学連）

4/29（祝） しあわせの村運動公園陸上競技場

第1試合 関学大 vs びわこ大

現在2連勝中のびわこ大は関学大との対戦。昨シーズンのこのカードの対戦成績はびわこ大の2戦2勝と相性のいい相手だけに確実に勝ち点を積み重ねたいところだ。

試合が動いたのは前半17分、ロングボールをびわこのFW⑬平野甲斐が右サイドで受けると、関学大DFを振り切り、低いセンタリング。そこに走りこんでいたMF⑨瀬古朋広が冷静に決めて先制点を挙げた。

後半に入ると関学大がFW 32 村井匠を投入し反撃に出る。しかしセットプレーなどからゴールに迫るが決めきれない。逆にカウンターから平野がDFの裏に抜け出しMF 30 二戸将のゴールをアシスト。その2分後にはまたしてもDFの裏をとった平野が駄目押しの3点目を決め、試合を決定付けた。

試合終了後、平野は「決められるところはもっとあった。自分としてはまだまだ」と1得点2アシストの大活躍も謙虚だった。

関学大 0 { $\begin{matrix} 0-1 \\ 0-2 \end{matrix} \}$ 3 びわこ大

得点(アシスト)者
17分 瀬戸(平野)
78分 二戸(平野)
80分 平野(篠部)

(文:UNN関西学生報道連盟 斉藤 徹也)

第2試合 関西大 vs 姫獨大

関西大 3 { $\begin{matrix} 1-1 \\ 2-0 \end{matrix} \}$ 1 姫獨大

得点(アシスト)者
15分 金園(佐藤)
50分 金園(大屋)
90分 金園(大屋)

得点(アシスト)者
8分 沈(原田)

首位の関西大は今季昇格した姫獨大と対戦した。

この試合、輝きを放ったのは関西大のFW⑱金園英学。前節にハットトリックを達成したエースがこの試合も躍動した。

関西大は試合開始早々にコーナーキックから先制点を許したが、前半15分、FW⑱佐藤悠希がペナルティエリア左でボールをキープすると、こぼれたボールが金園の足もとへ。迷わずシュートを放ち、まずは1点目を決めた。

同点のまま前半を折り返すと後半5分、MF 21 大屋翼のフリーキック、金園は「翼君やったらここやろ」とファーサイドで待ち構えていた。するとカーブのかかったボールは金園のもとへびたり。逆転弾を突き刺した。

金園のこの日最後の仕事は試合も決しようとしていたロスタイム。左サイドからの大屋のクロスにヘディングで合わせ、2節連続ハットトリックを成し遂げた。「FWなんでとりあえず点欲しい」と最後まで狙っていた。

川端秀和監督は金園について「できすぎ。毎試合1点でもとってくれれば」と話した。

(文:UNN関西学生報道連盟 斉藤 徹也)